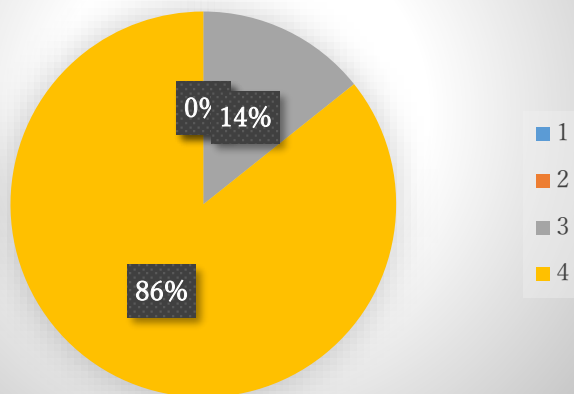
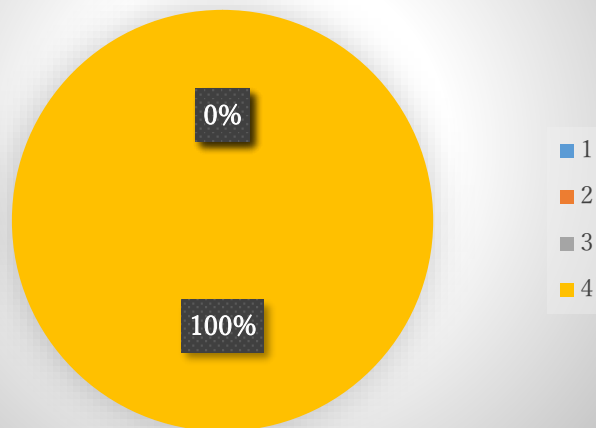


# 特別の教育課程の実施（英語活動）に係る学校関係者評価

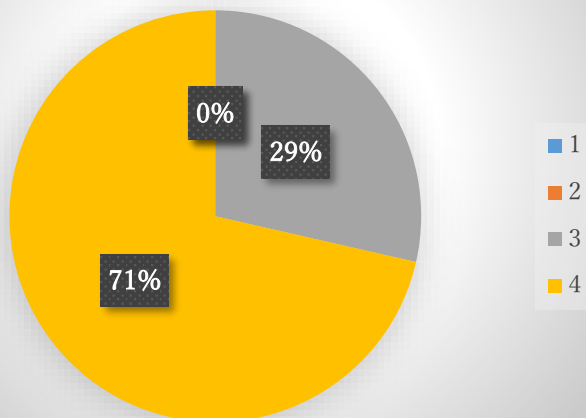
1 本校は積極的に英語活動を推進している。



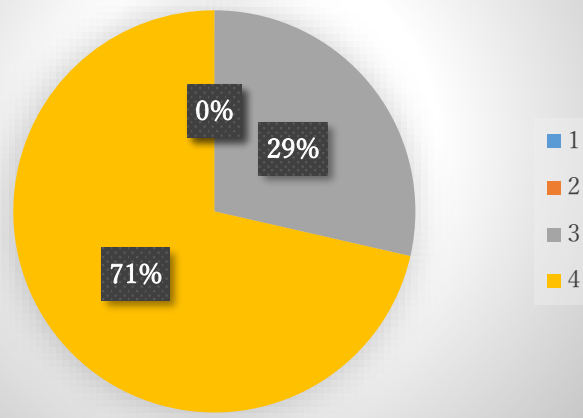
2 本校の児童は、英語活動の授業に意欲的に取り組んでいる。



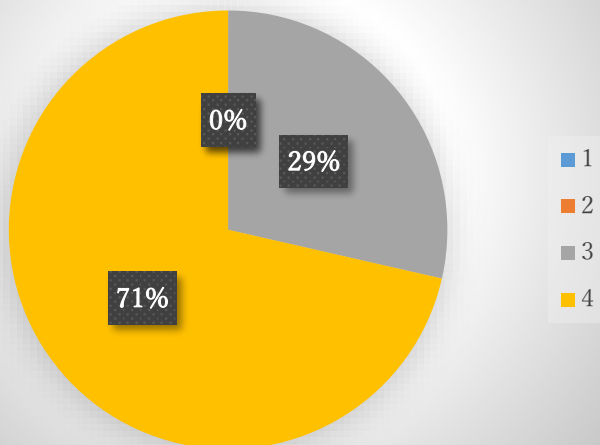
3 英語活動の取組は、本校の目指す児童の育成に寄与している。



4 本校はALTを十分活用し、異文化理解を推進している。



5 本校の英語活動は、児童のコミュニケーション能力の育成に役立っている。



数字の目安

- 4（よく思う） ■
- 3（そう思う） ■
- 2（あまり思わない）
- 1（まったく思わない）

特に英語活動に対して注視していた訳ではないので、改めて評価することは難しいので上平北小の「令和5年5月18日付け令和4年度 特例の教育課程の実施状況について」を参考にさせていただき評価しました。この評価をするにあたり気づいたことを申し上げます。

①特例の「進んで英語を話せる上尾の子を育てる」を目指しているなら、具体的にどの位話せるようになったかを検証することも必要と思います。また、3年生以上の学年は外国語となっていますが、教育課程がそうであっても特例で英語を目指しているのですから英語に特化して、特例を利用した結果、英語を話せる子になったという他市町村との差別化をした方がいいと思います。

②生活科が30時間以上削減されて英語活動をしています。が、本来の生活科で受けるべき授業内容を英語活動で補えているのかも検証すべきと思います。

③低学年で英語活動が増えたことで国語力への影響懸念します。令和3年12月実施の学力調査結果の概要では、調査対象の2・3・4年生は全国レベルを下回っています。令和2年4月から特例を開始したので学力調査時点の2年生が1年生、3年生が2年生の時から始まったことになりませんが低学年は国語力をしっかり身につけることが大事だと思います。

【原文ママ】